

第 4 回 亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事とりまとめ

開催概要

日 時：平成 28 年 3 月 3 日（木） 午後 3 時 25 分～午後 5 時 15 分

場 所：亶理町役場仮庁舎 西 3 会議室

委 員：

| | 役職等 | 氏 名 | 出欠 |
|---|-----------------------|--------|----|
| 1 | 株式会社カドサワ 代表取締役社長 | 門澤 俊夫 | |
| 2 | モリプレゼンス株式会社 専務取締役 | 森 義洋 | |
| 3 | みやぎ亶理農業協同組合 総務課長 | 中山 一哉 | |
| 4 | 宮城大学 食産業学部環境システム学科 教授 | 郷古 雅春 | |
| 5 | 亶理町教育委員会教育委員 | 佐藤 徳美 | |
| 6 | 七十七銀行 亶理支店 支店長 | 曾根田 和好 | |
| 7 | あぶくま信用金庫 亶理支店 支店長 | 佐藤 弘 | |

※全 7 名中、7 名出席。

亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会設置要綱の第 6 条 2 項の規定により、会議は成立した。

事務局：

| | | |
|-------|-----|--------|
| 企画財政課 | 班長 | 宍戸 和博 |
| | 副班長 | 久保 昭裕 |
| | 主事 | 猪股 裕二朗 |
| | 主事 | 武山 智哉 |

事務局補助：

| | |
|----------|-------|
| 国際航業株式会社 | 増戸 保明 |
| | 竹田 浩一 |
| | 小山 久美 |

配布資料：【次第】

【委員名簿】

【資料1】 亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略（中間案）

【資料2】 亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略概要版（中間案）

（以上、事前配布）

【あぶくまりバーサイドにぎわい創出セミナー 案内】

（当日配布）

議事概要

○開会に先立ち宍戸班長が、議会对応に伴う吉田課長の欠席の旨を伝えた。

○地方創生先行型交付金「あぶくまりバーサイドにぎわい創出事業」の一環で作成したピーアールCMを、会場に設置したスクリーンに投影して紹介した。

1. 開会

○宍戸班長が開会を宣言し、進行を行った。

2. あいさつ

○郷古委員長より、「皆様お忙しい中出席いただきましてありがとうございます。本日は、事前に送付された総合戦略の中間案の審議となります。私も内容を確認しましたが、分かりやすくまとめていただいたと思います。特に指標についての話題が中心になるかと思いますが、そのほかの内容も含め、これまでどおり皆様の忌憚ない意見交換をお願いいたします。」とあいさつがあった。

3. 議事

(1) 亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略（中間案）について

○郷古委員長により進行された。

○委員長が事務局に説明を求めた。

○猪股主事が、「資料1」のP1～P36に基づき、亶理町総合戦略の将来人口ビジョンについて説明した。

○続いて武山主事が、「資料1」のP37～P61および「資料2」に基づき、アクションプラン及び数値目標とKPIについて説明した。

○補足として宍戸班長が、第5次総合発展計画が3月2日に議決されたことと、2月23日の全員協議会で総合戦略について説明したところ「将来人口34,000人の維持は決して無理な数字ではない」といった意見が出されたことを報告した。

(2) 意見交換

中山委員：前は出席できずに申し訳ございませんでした。特に農業に関しては、ブランドづくりは以前から重要であると言われていて、農協としても今あるものや、新しく魅力的なものをブラッシュアップしていかなければいけないと考えているところです。

また、被災農地等を活用した新規作物の導入を検討しているところですので、44ページの③「イチゴに続く果物の産地化」というかたちで盛り込んでいただけて良かったです。

農業以外の施策で言うと、待機児童対策も盛り込まれているのは良いと思いました。

KPIについては、農業法人があと3つ増えるのは決して無理な数字ではないと思います。農業従事者の高齢化が進んでいる中で、個人での継続が難しくなっているケースが出ているなどの背景があるので、経営の経験不足を補うこともできる法人化のメリットを伝えながら、推進していきたいと考えています。

新規就農者が4人というのは厳しい数字だとは思いますが、農協としても頑張っていかなければいけないと思います。

事務局宍戸：ここで中山委員にお聞きしたいのですが、米の法人化にはどの程度の農地規模があれば経営が成り立つものなのでしょうか？

中山委員：米単体だと50haは欲しいです。大豆などと組み合わせた複合農業であれば30haでも成り立つとは思いますが、やはり法人化となれば100haは目指して欲しいところです。

佐藤徳委員：総合戦略の中身は、今までの会議の内容が盛り込まれ、分かりやすくまとめられていて素晴らしいと思いました。目標3（子育て支援）についても、私が申し上げた地域での子育てや家庭教育支援を追加していただき、ありがとうございます。

ひとつ質問があるのですが、KPIの「不妊治療費補助制度への申請件数」の目標値が25件というのは、どのような根拠からですか？不妊に悩む夫婦が6組に1組といわれている中で出生数の目標値が250人だとすれば、もう少し多いかなとも思うのですが。

事務局猪股：この事業は、県が実施している補助制度に町が加算するものとしておりますので、県に補助を申請している亘理町民の現況値が二十数件であることを参考に、推計して設定しました。

ただ、不妊治療自体が高額のために申請しないケースもあると言われておりますので、不妊に悩む夫婦の実数はもっと多いものと思われれます。

佐藤徳委員：承知しました。もうひとつ、「庁舎交流スペース1日平均利用者数」の目標値115人の内訳のうち『キッズスペース5人』について、私は新庁舎の計画はよくわからない中で申し上げますが、キッズスペースが作られるのであれば、もう少し多くなると良いなと思いました。

事務局宍戸：先ほど第5次総合発展計画が議決されたと申し上げましたが、新庁舎の基本構想・基本計画も同じく議決をいただきました。その中では、庁舎と保

健福祉センターを併設すると明記しております。平成 28 年度から基本設計に入りますが、この「キッズスペース」は窓口手続き中に、連れてきた子どもを暫時遊ばせておくという意味での小さなスペースです。

森 委 員：会議で申し上げた意見を採り入れていただいて、ありがたいと思っています。

ただ、44 ページに「③6 次化に向けた加工・販売のマッチングへの支援」とありますが、自分も実際にやってみて思うのは、マッチングする前に商品化がうまく進んでいない感が強いです。主な取り組みとして「商工会と連携したセミナー」等とありますが、町がやることと商工会がやることが重複しているケースが多い現状で、どのように“連携”していくとお考えでしょうか。

事務局宍戸：ご指摘のとおり、町・商工会・観光協会などが各々事業を実施しております。それによって各方面に広くアピールできているという面もありますが、やはりあまりにも類似している場合は手を組んで実施していかなければいけないと認識しており、メニューに入れました。具体的な内容は今後検討し、5 年間で実施していきたいと考えております。

門 澤 委 員：森委員のおっしゃるとおり、お金の出処が違うので、結果として同じようなものになってしまっていることは往々にしてあります。例えば観光協会がやっている「伊達なわたりファンクラブ」とほぼ一緒のものを、商工会でも実施しています。宍戸班長の言うとおおり、重複するものはすり合わせてまとめることが必要だと感じていますが、例えば商工会は互理町と山元町 2 つの自治体をまたがっているものであり、会員数に大きな差があるなど、是正には多くの課題があるのも現状です。

中 山 委 員：農協関連でも似たような感じです。また、森委員の指摘にもありましたが、マッチングのイベントは結構ありますが、その段階にまで踏み切れないという人も多くいますので、商品ができるまでの支援も必要だと思います。

森 委 員：地場のものを広く外に流通させるには加工品である必要があるので、商品というかたち作りをどうするかが大事です。実行する者にとっては、その道筋が分かりやすいと助かります。

郷古委員長：行政や組織のそれぞれの守備範囲や得意分野の調整など、難しい課題もあるとは思いますが、商品づくりを募集して、それに対して手を挙げた人がスムーズに進めることができるように、行政間や組織間でお互いに補強しあう、譲りあうなどの連携が必要かもしれませんね。

門 澤 委 員：商工会としても、町などの自治体に対する補助金の申請の仕方、要望の出仕方などにも工夫が必要であるという課題を認識しております。

曽根田委員：金融機関のネットワークを使ったビジネスマッチングを推進して、事業所や就業者が増えることになれば良いと思いました。また、当行には 1 日あたり 700 人前後の方々が出入りされますので、ロビーにポスターを貼るなどの協力を今後も続けていきたいと考えています。新規事業者への金融面での支援としては、このような行政の支援事業のほか、どの金融機関にも

あると思いますが就業者へのオリジナルの商品もありますので、町などを通じてアピールすることで支援に繋がれば良いと思っています。

また、数値目標 2 の観光客入込数ですが、震災前に 90 万人いたとは驚きました。ただ、インフラ面が回復しきっていない中で震災前と同じイベントを実施してもうまくいかないかもしれませんので、色々な施策がある中で、優先順位を付けたり、他と差別化できるようなイベント等が実施できれば更に良くなると思います。

事務局宍戸：従前値の 90 万人の出典は「宮城県観光統計概要」です。今からの季節ですと、潮干狩りとイチゴ狩りと温泉が格安で楽しめる『観光三昧』というクーポン券が大変好評だったのも要因のひとつだと考えられます。現在は休止しておりますが、周辺のインフラ整備が完了したら検討するものと考えられます。

佐藤弘委員：これまでの検討結果や意見を反映していただいていると思います。金融機関として、これからも支援できることはしていきたいと考えております。また、最近では各種補助事業への相談支援の需要も高まってきておりますので、当行内でも体制を整える予定としております。ひとつお聞きしたいのは、K P I の「移住相談件数」の目標値の設定について、考え方を教えていただければと思います。

事務局宍戸：現在、町では移住に関する相談窓口というものがなく、我々企画財政課が窓口のひとつで、特に PR もしておりません。今後は体制を整備して確立していくこととしており、また、財政を鑑みながら補助制度設立の可能性についても検討しております。更に、県が仙台市と東京都に設置している移住サポートセンターとの連携や情報共有を更に密にしていく予定等を考慮して、20 件という目標値を設定しました。

門澤委員：資料を読んで私が思ったことの 1 つめは、30 ページの将来展望の④、(結婚・出産)「個人の自由が最優先」という言葉が非常に強い印象を受けるので、少し表現を変えたほうが良いのではないかと、ということです。また、59 ページの④に関連することとして、「小中学生の学力の向上」が定住人口の増加に影響するのではと思いました。今の亶理町の学校教育が悪いと言っているわけではなく、仙台市のような人口規模の大きな中で学習している子どもたちに負けないように、学力の全体的な底上げが図られれば、移住先として選択される要素のひとつになるのではないのでしょうか。もうひとつ、K P I の「出会いの場からの新規カップル(婚姻)誕生数」の目標値が 5 年間で通算 3 組というのは、少ないようにも感じるのですがいかがでしょうか。

事務局猪股：町民生活課が関与している婚活イベントの成果は、だいぶ前に 1 組あっただけで、あとはずっとゼロだそうです。そのような状況ですので、目標値は 1 年に 1 組カップルができて 1 年付き合ってから結婚と考えたと 5 年で 3 組、という計算で設定しました。

事務局宍戸：それでは、「個人の自由が最優先」の表現について委員の皆様にご審議していただきたいと思っています。

門澤委員：色々な理由があつて結婚しない、出産しないということを尊重するという意味合いが含まれているのは分かるので、「自由」という言葉ではないほうが良いと思います。

郷古委員長：「産めよ増やせよ」というだけではなく広く亘理町に定住していただきたいのですから、文頭の「結婚出産は～出生率向上のため」は削除しても良いのではないのでしょうか。その上で、「希望をかなえるため、それを『阻害する要因の除去』を進めます。」にしてはいかがでしょうか。

事務局宍戸：そのように文言を修正いたします。

次に、小中学生の学力の向上について、総合戦略に入れこむかどうかがご審議願います。なお、第5次総合発展計画の重点施策には、学力向上が盛り込まれております。

門澤委員：承知しました。総合発展計画で重点施策に入っているのであれば、こちらに入れ込まなくてもよろしいかと思ひます。

郷古委員長：私からも申し上げます。まず、29 ページに「『合計特殊出生率の上昇』と『人口移動の均衡化』が同時に図られた場合、老年人口比率は32%以上には上昇しません」とあることに関してです。10 ページや11 ページに出生率や社会増減などが示されておりますが、既に2000 年台には自然減が続いていることを見ると、数値目標3の「震災前の水準」よりももっと高い出生数を設定しないと、目標人口の達成が困難になるということではないでしょうか。

また、社会増減に関連して、亘理は仙台のベッドタウンであり十分に仙台圏に通勤できるという地理的なアドバンテージを活かすためにも、周辺市町よりも施策や補助金を多めに出すことで、多大なインパクトを与えられると思ひます。

更に、こちらに来る前に偶然「中町カフェ」というのを見つけて入ってみたのですが、ワークショップ後だったらしく、オーナーさんや何人かの人とお話できました。町内で気軽に集えるお茶飲み場のニーズが高かったのでオープンしたとのことでしたが、交流人口の拡大には、このような町の人同士や外の人との気軽な交流の場が重要であると改めて感じました。

事務局宍戸：ご指摘のとおり、目標人口を鑑みると少なめの出生数ではありますが、まずは震災前の水準に戻すことを目標値としております。妥当性については、再度事務局で検討させていただきます。

また、移住定住補助につきましては、震災の影響もある程度落ち着いてきている中でも、町外からの移住者が年100件ほどあります。限られた町の予算の枠組みの中で、補助内容等について検討を重ねております。

なお、中町カフェはオーナーさんがNPO 法人の代表です。確かに町内には気軽にコーヒーを飲めるような場所がだいぶ少なくなってきましたので、気軽に集えるようなお茶飲み処がたくさんできるようになれば良いと考えています。

郷古委員長：それでは、これまでの委員会を振り返って、皆様に一言ずついただければと思ひます。

中山委員：今回の委員会に参加させていただいて、意見を言うだけでなくさまざまな情報交換ができ、ありがとうございました。そこで感じたのは、トップ同士の意見交換の場は既にあるのですが、町内の企業者の事務レベルでの情報交換や共有・協議ができる場があれば、もっとうまくいくことが増えるのではないかと感じました。

佐藤(徳)委員：私は子育て分野を専門としているのですが、専門外のことを色々知ることができて、勉強になりました。ありがとうございました。

森委員：仕事や生活に、ここで知ったことや経験を取り入れながら勉強していく良い機会となりました。ありがとうございました。
戦略メニューにあります、地元の商店が参加できるイベントが多くできれば良いと思いますし、町の文化・スポーツ功労賞などがあることもアピールしていけば良いと思いました。

曾根田委員：様々なことを勉強させていただきました。これまでも町外や県外からのイベント支援などを行ってきましたが、今後も人口維持に繋がるようなご支援やご協力を続けていきたいと考えております。
また、金融団という組織もありますので、普段はライバルですが、総合戦略の主旨を皆で共有したり補完したりしながら、町の発展のために色々実施していけたら良いと思っています。

佐藤(弘)委員：これまでは漠然と亶理町を見ていたのですが、4回の委員会に参加させていただいて、町の強みや弱みを深く知ることができました。亶理町さんとは特に地域密着総合連携協定を結んでおりますので、今後も引き続き協力させていただきたいと思います。

門澤委員：事業者として、また商工会の人間として参加させていただきました。そのような中で、本日議題に上がりました商工会と亶理町、または農協・漁協等との連携を調整して、重複している事業をうまくまとめて、この5年間の総合戦略の中で産業分野がひとつにまとまるように頑張っていかなければならないと感じました。

郷古委員長：亶理町の中核になっている方々の多様なご意見をお聞きすることができて、非常に勉強になりました。検討会は今年度以降も続くと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

4. その他

- 宍戸班長が、来年度1～2回の委員会の開催を予定していることを伝えた。
- また、今回の委員会の意見を反映して内容を修正し、委員会の確認を省略してパブリックコメントにかかる件について委員に諮ったところ、全員事務局一任と了承を得た。それを受け、宍戸班長が3月第2週から10日間のパブコメを予定することを伝えた。
- 宍戸班長が、「総合戦略は柔軟に変更をかけながら実現に向けて進んでいくこととなりますので、皆様今後ともどうぞよろしくお願いいたします。」とあいさつした。
- ここで3月23日に開催される「あぶくまりバーサイドにぎわい創出セミナー」と、亶理

町のピーアールCMの映画館での上映予定を示す資料を配布し、内容について説明と案内を行った。

5. 閉会

○門澤副委員長より、「平成 27 年度は最後の委員会ということで、皆様お忙しい中長時間に渡りご意見ご検討いただきましてありがとうございました。28年度も TO BE CONTINUED のことです。一人で豊かになれる社会ではありませんので、皆さんで力を合わせて互理を盛り上げていけるように期待しております。今後ともよろしくお願ひします。」とあいさつがあった。

○穴戸班長が閉会を宣言した。（午後 5 時 15 分閉会。）